

目的：外国籍市民が暮らしやすくなる
 指標：外国籍市民と交流している人の割合

目的

国際化の時代にあつて市民一人ひとりが、多種多様な民族的、文化的アイデンティティを尊重し、人に優しい生活システムを構築していくことにより、外国籍市民が暮らしやすくなるまちづくりの実現が必要であると考えます。

指標

外国籍市民と交流する人達がより増えることにより、日常生活の中で様々な不安やトラブルが減少するようになることを目指します。

設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

あなたは日頃、松戸市に在住したり、滞在したりしている外国の方達と親しく接することがどのくらいありますか。(1つに)

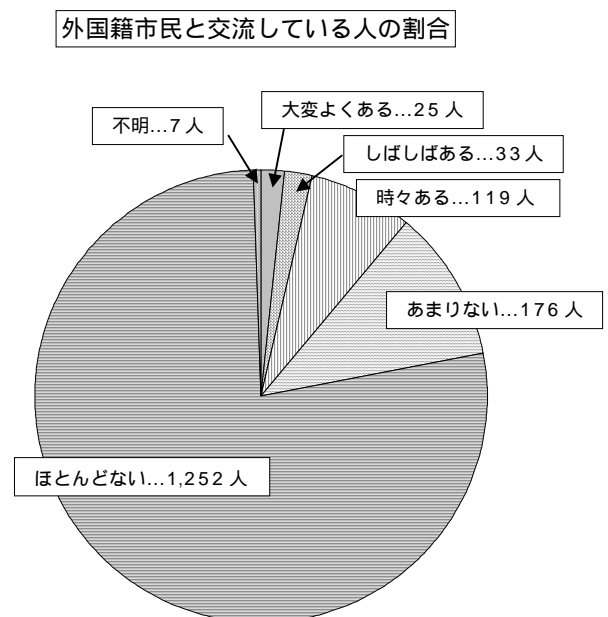
- 1 大変よくある 2 しばしばある 3 ときどきある 4 あまりない
- 5 ほとんどない

指標の現状(値)

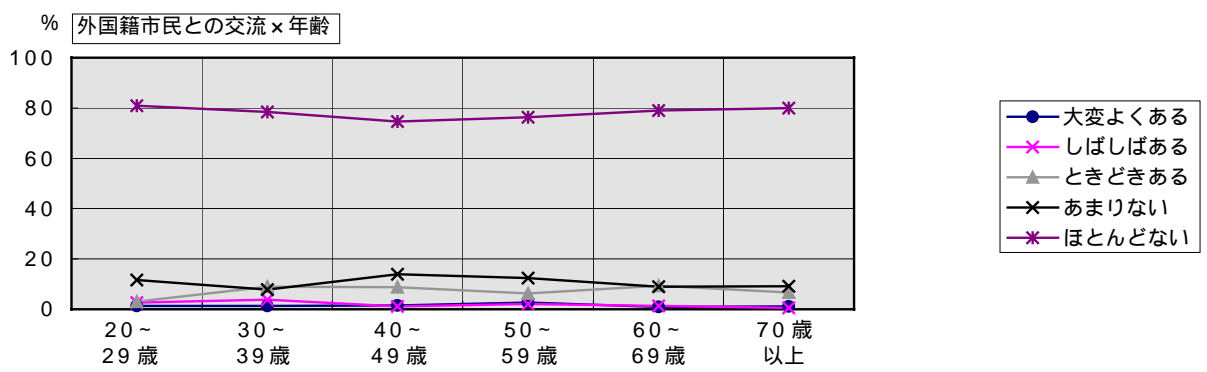
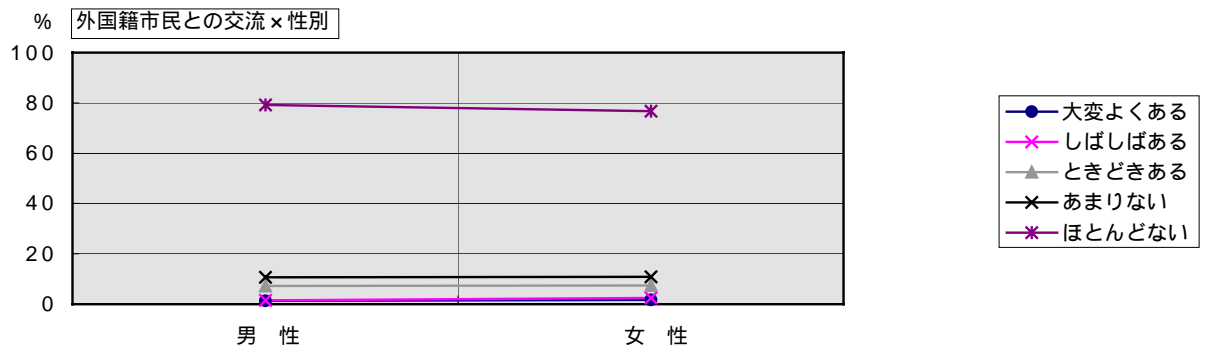
カテゴリー	割合
大変よくある	1.6%
しばしばある	2.0%
計	3.6%

指標の分析

外国籍市民との交流している人は、3.6%と積極的に行動していない。また、ほとんどない人が77.7%と3/4を占めている。



次に、性別および年齢別に見るが、交流している人が少ないため偏りがみられない。



目的：すべての人が世界平和を望むようになる

指標：国際紛争に対する関心を示す人の割合

目的

世界の人々、これから生まれてくる子どもたちに再び戦争等の悲惨さを繰り返さないために、世界唯一の被爆国として、平和の重みを感じ、平和を愛し、平和の大切さを深めて、何よりも尊い恒久平和に対する意識を高めることが重要と考えます。

指標

国内においては、平和な状態が維持されているが、国家間の紛争や軍備の拡張、テロの台頭による緊張の高まりは、当事国だけの問題でなく様々な形で他国の平和を脅かしているため、世界にも目を向けた市民の平和に対する意識の高揚を図ることを目指します。

設問

この指標は、次の設問により単なる興味関心ではなく、解決という意識を聞いている。「社会・態度（関心）」

あなたは、現在世界のあちこちで起こっている国際紛争の解決について特に関心をお持ちですか。（1つに）

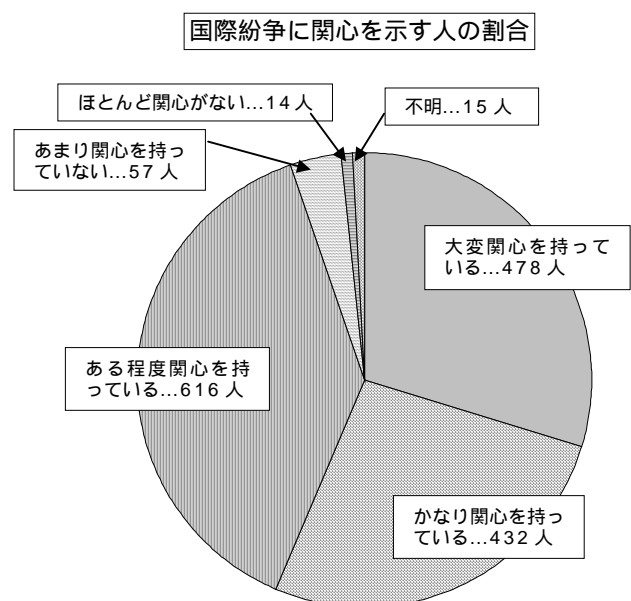
- | | |
|----------------|----------------|
| 1 大変関心を持っている | 2 かなり関心を持っている |
| 3 ある程度関心を持っている | 4 あまり関心を持っていない |
| 5 ほとんど関心がない | |

指標の現状（値）

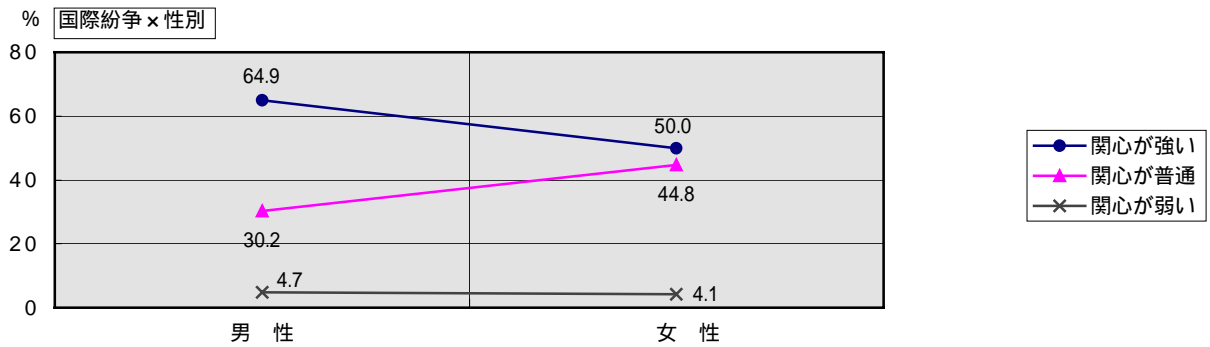
カテゴリー	割合
大変関心を持っている	29.7%
かなり関心を持っている	26.8%
計	56.5%

指標の分析

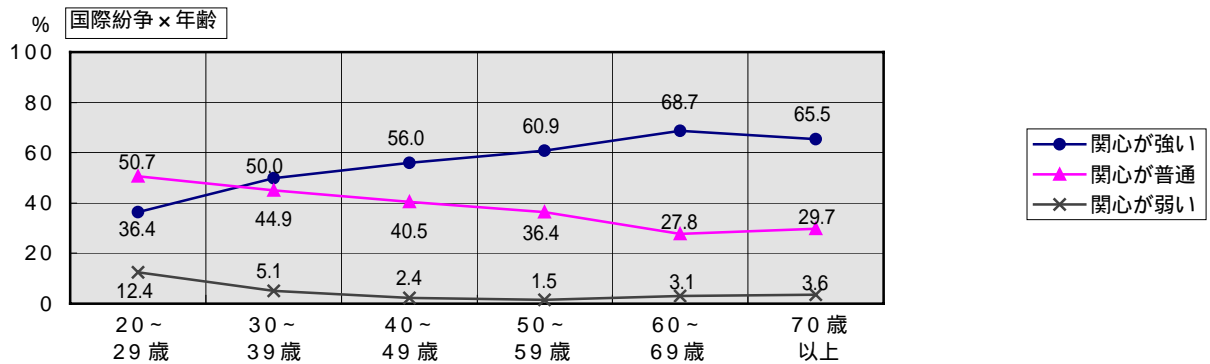
国際紛争の解決について、強い関心を持つ人（「大変関心を持っている」「かなり関心を持っている」）が56.4%と半数以上であり、関心を持つ人（「ある程度関心を持っている」）までを合わせると94.7%と関心度が高い。



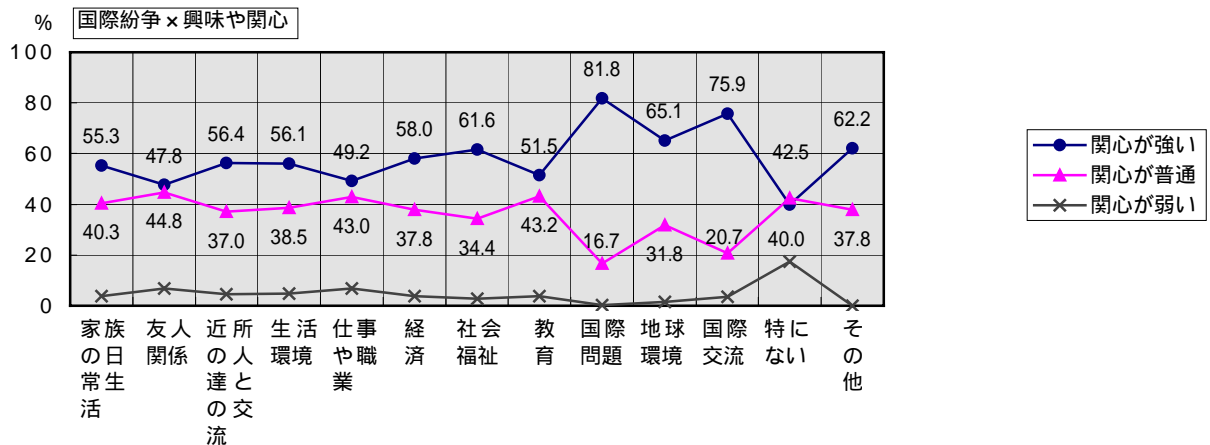
次に、性別で見ると、女性より男性の方が強く関心を持っている。



また、年齢別に見ると、加齢すると共に、関心度が強くなる。



さらに、日常的な興味や関心との関係を見ると、「国際問題」「地球環境」「国際交流」など世界規模で興味や関心を持つ人は、やはり関心度が強い。



目的：より多くの人々が文化・芸術に親しみ、自ら創造的な活動をするようになる
 指標：文化・芸術に親しむ人の割合

目的

市民が自分の住むまちに愛着を感じ、郷土として誇りを持ち続けるには、文化的なアイデンティティが大きな要素となります。市民自らが文化の担い手となり、独自の文化を創出していくことが求められており、わがまち「まつど」の文化芸術活動を促進し、市民はもとより市外の人にとっても魅力のあるまち「まつど」をつくり上げることが重要と考えます。

指標

市民が親しんだり活動したりしている文化や芸術には様々なものがありますが、市民の自主的活動や自ら創造的な活動をする市民が増えていくことを目指します。そこで文化・芸術に親しむ市民の割合を指標として測ります。

設問

この指標は、次の設問により創作や実践と鑑賞を区分して直接的に聞いている。「個人・行動」

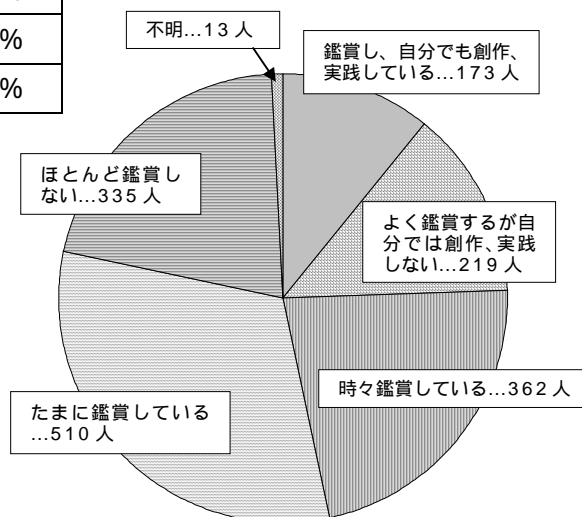
あなたは日頃、絵画、音楽、映像、演劇などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践することがありますか。(1つに)

- 1 鑑賞し、自分でも創作や実践もしている
- 2 よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない
- 3 時々鑑賞している
- 4 たまに鑑賞している
- 5 ほとんど鑑賞しない

指標の現状(値)

カテゴリー	割合
鑑賞し、自分でも創作や実践もしている	10.7%
よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない	13.6%
時々鑑賞している	22.5%
計	46.8%

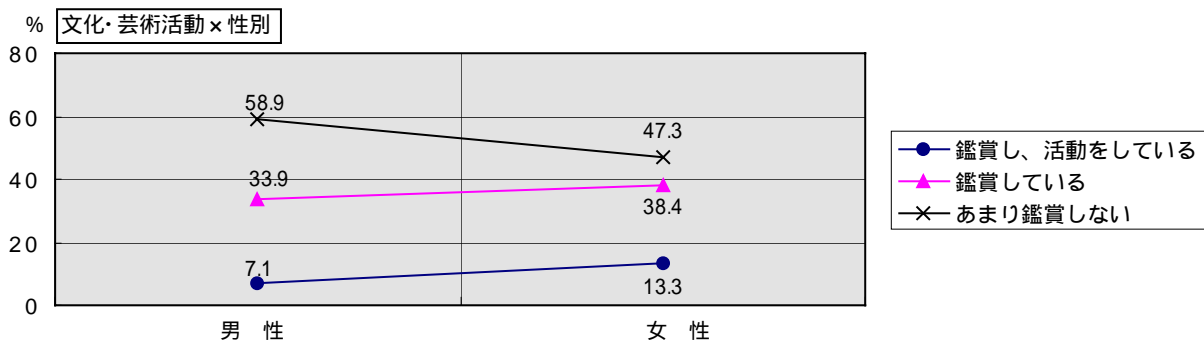
芸術に親しみ、活動している人の割合



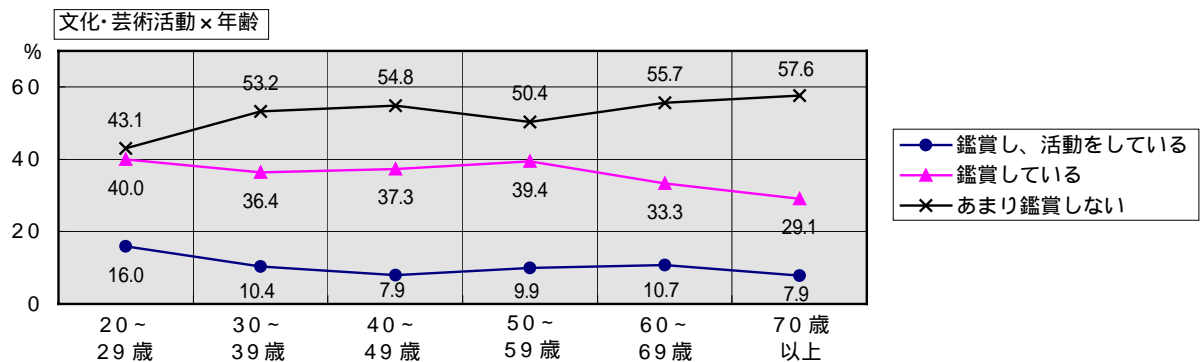
指標の分析

日常的に文化・芸術に親しみ、自ら創作や実践をしている人は10.7%であり多くない。しかし、鑑賞している人を含めると46.8%で半数近くなる。

次に、性別で見ると、男性より女性の方が、活動したり、鑑賞したりする割合が高い。



また、年齢別に見ると、加齢とともに活動したり、鑑賞したりする割合が減少する傾向がある。



さらに、文化・芸術環境の満足度の関係を見ると、実際に活動している人の満足度は高いが、活動も鑑賞もしていない人の満足度が低い。

